

富士見町景気動向調査報告書

～小規模事業者・中小企業者景況基本調査～

2022年（令和4年）7月から9月

- 1 調査期間 2022年7月～9月（第2四半期）
- 2 調査対象 富士見町内小規模事業者・中小企業者
- 3 回答状況

製造業	11社
建設業	2社
小売業	3社
飲食業	2社
観光業	3社
計	21社
- 4 調査項目
 - ① 3か月前と比べて
 - ② 前年同期と比べて
 - ③ 3か月後の見通し※ 経営者が受注額（販売額）・売上高・営業利益等から主観的に判断しています。
- 5 業況DI（Diffusion Index）とはゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表し、マイナスの値で景気の下向きを表しています。

volume 6

主管 ふじみまち産業振興センター

<概況>

3か月前と比べると全体の業況DIは+23.8ポイントであり、前回は-6ポイントである。これは製造業が前回は-44ポイントであるため数値を下げている要因である。

一方で飲食業は+100ポイント、観光業+75ポイントとなっておりプラス要因も働いている。経営者の眼にもある通り、飲食業や観光業はコロナ禍ではあるが、行動規制がないため消費が伸びている現状がある。

前年同期比においても、全体の業況DIは+33.3ポイントであり、前回は-16.7ポイントである。業種別に見ると製造業は-37.4ポイントである。

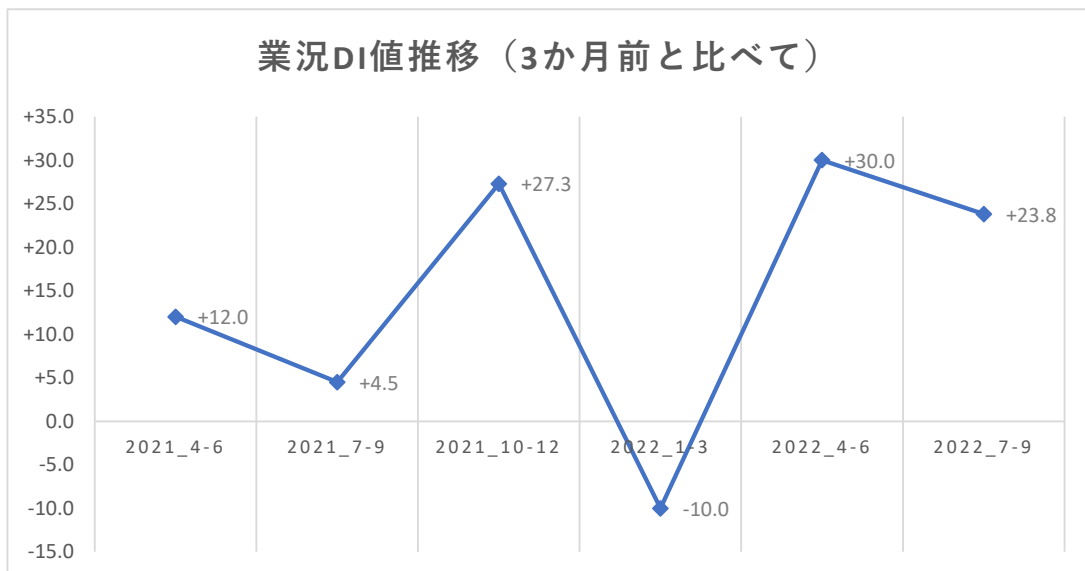
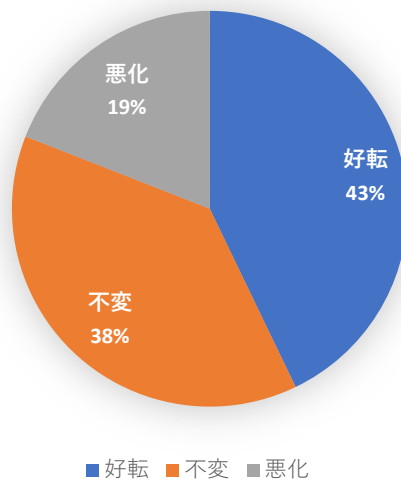
一方で飲食業は+100ポイント、観光業は+25ポイントである。諏訪地域は御柱年であるため、町内各地で小宮祭が行われている。経営者の眼にもあるとおり小宮祭効果が出ていると感じる。

製造業に関しては少しブレーキがかかっている状況が伺える。円安等の影響により原材料や経費の高騰により利益を圧迫している。

3か月後の見通しでは、全体の業況DIは0ポイントであり、前回は-10ポイントである。見通しが少し暗くなってきている。

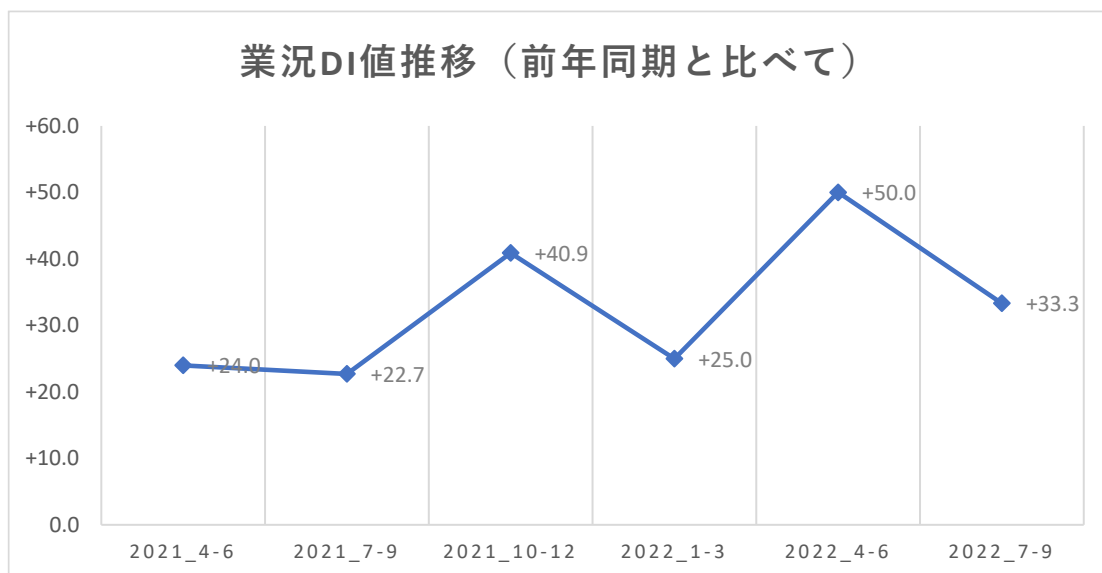
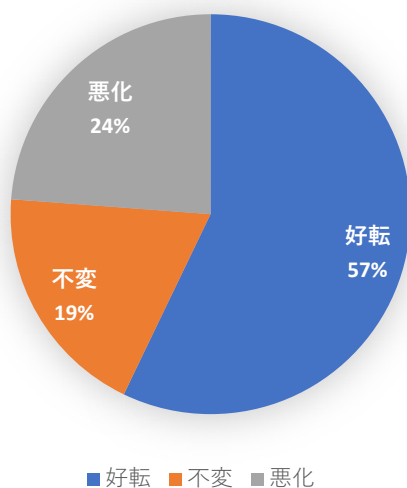
<項目1> 3か月前と比べて

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	9	8	4	21		↓
	構成比	42.9%	38.1%	19.0%		+23.8	
製造業	実数	3	5	3	11		↓
	構成比	27.3%	45.5%	27.3%		0.0	
建設業	実数	0	2	0	2		→
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
小売業	実数	1	1	1	3		↓
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0	
飲食業	実数	2	0	0	2		↑
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
観光業	実数	3	0	0	3		↑
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	



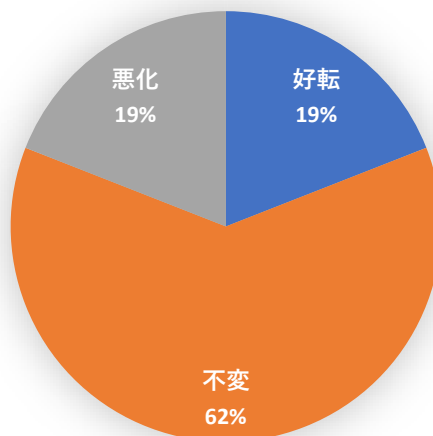
<項目2> 前年同期と比べて

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	12	4	5	21		↓
	構成比	57.1%	19.0%	23.8%		+33.3	
製造業	実数	5	3	3	11		↓
	構成比	45.5%	27.3%	27.3%		+18.2	
建設業	実数	1	0	1	2		→
	構成比	50.0%	0.0%	50.0%		0.0	
小売業	実数	1	1	1	3		↓
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0	
飲食業	実数	2	0	0	2		↑
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
観光業	実数	3	0	0	3		↑
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	



<項目3> 3か月後の見通し

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	4	13	4	21		↓
	構成比	19.0%	61.9%	19.0%		0.0	
製造業	実数	1	8	2	11		↓
	構成比	9.1%	72.7%	18.2%		-9.1	
建設業	実数	0	2	0	2		→
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
小売業	実数	1	1	1	3		↗
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0	
飲食業	実数	1	1	0	2		→
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	
観光業	実数	1	1	1	3		↘
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0	



■好転 ■不変 ■悪化

<経営者の眼（見方）>

事業主コメント	業種
円安が収益に大きく影響する。	製造業
購入品の高騰(30%~50%)による収益悪化と、顧客生産調整による受注減で売り上げ減の状態が長引いている。また世界の景気が下降線に入ってきている。ロシアによる侵略戦争の終わりが見えないことも経済不安の要因もあると思われる。	製造業
売上金額については順調に推移しているものの、原料等の高騰が利益を圧迫しています。販売価格の値上げも昨年より数回実施していますが、仕入れの急騰に追い付いていない状況です。	製造業
景気減速の情報が多く聞こえてきており、半年前に比べ競合先が安く見積を出してきている印象。原材料等々高騰してきている中、利益を出すのが厳しい状況。	製造業
材料費・電気代・消耗品のコストUPが懸念される。	製造業
特に石油部門はそもそものカーボンニュートラルに加えウクライナ情勢、円安の影響が大であり、数量減少や仕入れの高騰等、良い兆しを見つけることが難しい状況。	小売業
経費の増加が利益を圧縮しています。協力工場の為、原材料費の影響は少ないですが、今後の見通しは仕事量も含めて不透明感が高まっています。	製造業
さらなる円安が進む可能性が高いため先行きは楽観視できない状況。需要は回復の兆しは見られるものの例年同期と比較すると弱さが見られ、インフレの家計への圧迫が背景にあるものと見ている。	建設業
原材料価格や経費の高騰等不透明感はあるものの堅調に推移しています。今後も緩やかな成長を見込んでいます。	製造業
コロナ禍の行動制限もなく、御柱小宮祭等地域の活動も戻りつつあり、堅調に推移しています。また、振興券にも期待しております。	飲食業
一部分の部品が遅れ気味ではあるが、納期遅れの無い部品については生産調整を行わず買い上げてもらっている。客先は強気で部品ストックヤードを確保した。	製造業
原材料、電気料値上り幅が大きく、利益減少は避けられない状況。	観光業
観光客は増加している。ただ、せっかくの商機も高齢化で活かせない。残念です。	観光業
好転材料が見当たりません。現用維持を第一に考えています。	小売業
季節柄とコロナが落ち着いてきたこともあり、好転となった。重なる値上げに厳しい状況が続くそうではあるが、今後の3ヶ月は振興券のご利用に期待したい。	飲食業
半導体不足により設備の発注が減っている。また、EV関係の仕事は大きな変化はないが、競合他社が顧客上層部へアピールし仕事を受注するため全体的な仕事量は減っている。しかし、精度的に厳しいものは他社で不良が出ているため戻ってくると思われる。	製造業
仕事があっても施工が整わない	建設業